

鳥取の春を追う旅

3月は野花梅溪、4月は打吹公園の桜、「開運神社」も併せて県中部を巡ってみよう

企画・制作 / 中日新聞広告局

真綿のような雪で白く覆われていた鳥取県の各地が、これからは穏やかな日差しとともに春色へと塗り変えられていきます。今ご紹介する野花梅溪(のきようばいけい)と打吹(うつぶき)公園の桜は、同県に新しい季節の到来を告げる代表的な春景色。近隣に点在する縁起の良い名前の神社と併せて訪れてみませんか。

山陰随一の梅林と山の麓にある桜名所

春景色を求めて向かうのは、鳥取県中部。お目当ての野花梅溪は二十世紀梨の名産地の湯梨浜町にある梅林で、同町原産の梅「野花豊後(ぶんご)」の木が湖(東郷湖)と日本海を望む傾斜地に約2000本植栽されています。同町観光協会では、近隣の「中国庭園 燕趙園」入園をセットにした散策ツアー(700円)を3月上旬〜下旬に実施。薄ピンクの梅の花がほころび始めるのも、もうすぐです。

春の開花リレーは、桜の名所100選に名を連ねる打吹公園へと続きます。ここは、倉吉観光の中心「白壁土蔵群」に程近い、標高約204mの打吹山麓の自然公園。例年3月下旬〜4月上旬、ソメイヨシノなど約4000本

が、さんざめく花見客の足を止めさせます。さらに3月30日(金)〜5月10日(木)には、「倉吉春まつり」に合わせ460個のぼんぼりが点灯(午後6時〜10時)。夜桜もまた格別です。

御朱印集めも楽しみな開運神社3選

鳥取県の中西部には、縁起の良い名前の神社が点在しています。良質の砂鉄が採れた中西部では、かつてたたら文化が隆盛。製鉄への送風を表す「ふく(福)」の字を冠した神社が多く、当時の名残りだといわれています。現在は、たたら文化を今に伝える縁起の良い名前の8つの神社と、その年の干支にちなんだ神社を巡る旅を観光客に提案。今年は一戌年 因幡伯耆國 開運八社巡り」です。今回は春景色の鑑賞とともに

湯梨浜町の「倭文(しとり)神社」は干支にちなんだ神社ですが、これは安産を願うのが戌の日、安産の神が祀られていることから。またここでは、鳥居の先の「隨身門」にも注目です。獅子や鶏など、躍動感あふれる見事な彫刻が施され、参拝者を見守っています。

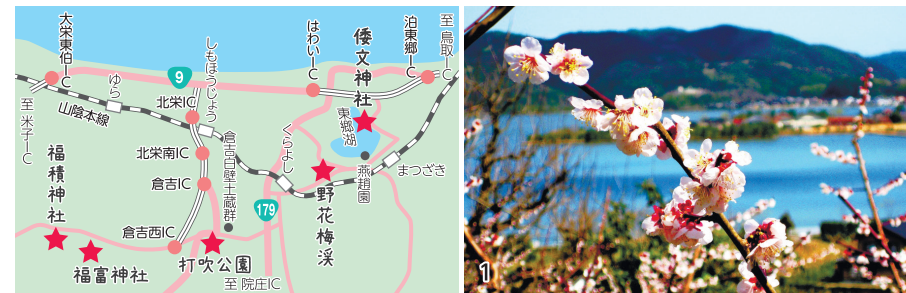
三社とも、境内を渡る風に冬の匂いが感じられつつも、残雪の白を一層輝かせる木漏れ日に、春が確かに兆していました。花の開花リレーと、季節の狭間を越えた山中の神社巡り。鳥取の春追いの旅を今年はずせひ。

アクセス

電車：名古屋→(新幹線)→姫路→(スーパーはくと)→倉吉(約4時間) 車：小牧IC→(名神高速or新名神高速)→中国道→院庄IC→(国道179号線)→倉吉市内

問い合わせ

ふるさと鳥取県産業・観光センター(中区栄4-1-1 中ビル4階) 電話052-262-5411 <http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>



1) 野花梅溪、2) 打吹公園の桜、3) 福積神社、4) 倭文神社の彫刻、5) 鳥取のソウルフードといわれる牛骨ラーメン。地元では古くから定番の味となっていて、人気が高い。写真は倉吉市の麺屋八兵衛の牛骨ラーメン(600円)、6) 福積神社で開運手ぬぐいを持つ長田さん